

# 釜ヶ崎講座ニュース NO.63

2021年7月4日

釜ヶ崎講座

大阪市港郵便局私書箱40号

大阪市西成区萩之茶屋1-9-7

釜ヶ崎日雇労働組合気付

事務局 090-2063-7704

Mail [kamakouza@cw2.bai.ne.jp](mailto:kamakouza@cw2.bai.ne.jp)

<http://cwoweb2.bai.ne.jp/kamakouza>

郵便振替 00940-1-132778

会員、読者のみなさん、釜ヶ崎講座です。日頃のご支援、ご協力に感謝いたします。カンパのご支援もいただき、重ねて御礼申し上げます。

さて今回のニュースは、来る8月7日に行います「釜ヶ崎講座シンポジウム」の開催ならびに第50回釜ヶ崎夏祭りの開催予告を中心とした内容になりました。よろしく願いいたします。

## 1. 「釜ヶ崎講座シンポジウム」を開催します。

～コロナ禍の中での生活困窮者への支援活動をめぐって～

のタイトルで

\*日時 2021年8月7日(土) 18:00～21:00

\*会場 エル・おおさか(606号室)

大阪府中央区北浜東3-14 ☎ 06-6942-0001

大阪メトロ谷町線・京阪「天満橋駅」西へ300M

大阪メトロ堺筋線「北浜駅」東へ500M

\*会場は申し込み不要、先着50名で対処させていただきます。

\*資料代は500円です。

**\*\*～当日 you tube ライブ配信予定（ライブ後も視聴できる予定）**

ご希望の方は、前日8月6日（金）までに、連絡先メールアドレスと「ライブ配信希望」の旨を釜ヶ崎講座（[kamakouza@cwo2.bai.ne.jp](mailto:kamakouza@cwo2.bai.ne.jp)）までお送りください。  
当日17時50分すぎに URL をお送りします。～

◎当日のシンポジスト（意見発表者）ならびに内容は以下のとおりです。

☆「コロナ禍で生まれた ALL 大阪の連携」

新型コロナ住まいと暮らし緊急サポートプロジェクト OSAKA 呼びかけ人 小林大悟さん

☆「コロナ禍で試してみた居住支援の特徴と特定定額給付金・ワクチン接種の支援」

釜ヶ崎支援機構事務局長 松本裕文さん

☆「おうちプロジェクトーコロナ困窮者の住宅確保応援プロジェクト」

認定 NPO 法人ビッグイシュー基金 プログラム・コーディネーター 川上翔さん

☆「個室シェルター『アンドセンター』を通じた居宅移行支援の課題と展望」

認定 NPO 法人 Homedoor 相談支援員 永井悠大さん

☆「コロナ災害を乗り越える何でも電話相談会と生活保護をめぐる状況」

生活保護問題対策全国会議事務局長、弁護士 小久保哲郎さん

◆コーディネーター：関西学院大学人間福祉学部准教授 白波瀬達也さん

ご存じのように昨年当初よりの新型コロナによる失業は10万人越えという状況を生みだしました。この1年半、コロナ禍の中で、仕事や住まいなどひっ迫した状況に追い込まれた生活困窮者への支援活動が取り組まれてきました。一方、生活保護取得がいまだ困難な日本では今どのような状況が起こっているのか、そして失業・困窮者の居（場所）・食・住（宅）の状況と支援は、コロナ生活給付金やワクチン対応は。このたび上記の方々のお話での取り組みを経てのご意見をシンポジウム形式で討論し合いながら、さらなる困窮者支援のしくみの充実に資する目的で開催させていただきます。ぜひお越しください。お待ちしております。

## 2. 第50回釜ヶ崎夏祭りは開始にむけて

実行委員会で話し合いが進行中、釜ヶ崎講座「釜歩きツアー」は8月15日（日）に行います。

**\* ツアー日時：2021年8月15日（日）**

12時30分受付開始、13時出発

**\* 集合場所：釜ヶ崎日雇労働組合事務所前**

大阪市西成区萩之茶屋1-9-7

(JR新今宮駅東口から徒歩5分、メトロ動物園前駅3・4・6番出口から5分。

府道交差点南側ローソン角南方向へ約20M[通称銀座通り]歩いて最初の筋右へ、そして10M先、すぐ左へ 右筋金網フェンスのある建物。

釜日労の看板あり)

**\* ツアー案内人 水野阿修羅さん**

**\* ツアー会費 500円**

### 3. これまでの釜ヶ崎講座の取り組み報告

#### ① 4月17日、釜講座第18回学習会開催される

～『家族訴訟』 ハンセン病家族訴訟は終わっていない！～のテーマで

去る4月17日、西成太子福祉館で上記のテーマにて学習会が30名の参加で開かれました。話題提供者は黄光男（ファン・グァンナム）さんでハンセン病家族訴訟原告団副団長としてハンセン病問題の裁判と運動に取り組んできた方です。前回、第1弾の学習会で話題提供していただいた福田佳昭さんが指摘されたように、明治維新政府が治る病気を不治の感染症として差別的に決めつけて以降、国家と歴代政府はこれにならう形で1990年代まで「らい病」の名で当事者には有無を言わせない絶対隔離・収容と「無らい県運動」を国民に強要する政策をとり続けました。しかも全国民が長年にわたり率先して協力してきたという官・民一体でつくられた差別迫害の歴史が続いたのです。当事者と心ある医師や学者は真実と正義のもとに闘い続けてきました。そしてついに長い苦闘のはてに2001年、国からの謝罪を勝ち取りました。しかしこの病気による差別と苦痛の波及は当事者のみならず、家族へも絶大な犠牲を強いてきたのであり、その根源は何なのか黄さんはこの学習会で訴えたのでした。ハンセン病家族訴訟は2016年の561名の家族原告団の結成からの闘い、そして2019年熊本地裁判決をもって終わったかに見えるが、決してそうでないことを黄さんは自分の生い立ちを軸に歌とギターをまじえて語りました。今も自分をハンセン病家族と言えない人、本人から差別を謝罪されずに無念の気持ちを抱えたままに亡くなった人、謝罪をしてほしいと今も心から切に願う人、このことからハンセン病問題と家族の真の解放の問題はこれからも1人1人が向き合わな

ければならない課題として明らかとなりました。黄さんの言葉です。「地位や権力があるからといって、その人間の間違いの言葉をうのみにして聞いてはならない。おかしいといえる勇気を1人、1人が持たなければならない。」当日忙しい中、語っていただいた黄さん、有難うございました。参加したみなさん、ご苦労様でした。

## ② 第52回釜ヶ崎メーデー開催される

去る5月1日、7時30分より釜の地域内にある「萩小の森」で第52回釜ヶ崎メーデーが約120名の参加でおこなわれました。コロナ禍で連合大阪メーデーなどが中止される中、釜ヶ崎日雇労組・反失連を柱とした仲間の力で活気あふれる集まりとなりました。集会スローガンは「野宿させるな！仕事させろ！日雇労働者の団結で全世界の仲間とともに闘うぞ」でした。集会では半失業の課題として特掃の月13日化、若い仲間への公的就労のしくみの創出などを要求の中心に据え、センターもそこで暮らす人間が真に利用できる実効性を持った施設にすることが改めて訴えられました。8時半より釜の街へとデモに出発、全世界の労働者、虐げられた者の団結を訴えながら終了していきました。釜講座も参加して連帯のあいさつを行い、ともに釜ヶ崎メーデーをたたかいました。（この項おわり）

### ◆事務局から

いつも釜ヶ崎講座へのご支援・ご協力に厚く感謝申し上げます。釜ヶ崎講座は皆さんのカンパにて運営しております。このたびも「振込取り扱票」用紙を同封させてもらっております。よろしく願いいたします。